

西条昌良

後援会会報
臨時号

第98代副議長に就任 石川議長 地元の期待担い始動



初登庁で事務局職員より花束が正副議長に

三十六歳で
県議に初当選
した西条議員は、
一期目一年目
の平成三年から、
「鹿島の発展が、
茨城の発展つ
ながるとの信
念で、毎年の
ように県政全
般を論じる一
般質問に立ち
鹿島開発を起
爆剤とした地
域づくりに向け
持論や提言を
交えながら熱
い思いを語り続けるな
副議長に就任しました。て将来を嘱望されてい
平成十七年第一回定例
会の最終日に行われた、
最大会派である自民党
の、正副議長は任期一
年という申し合わせに
伴う改選で、石川多聞
第九十六代議長(61)と
もに選任されたもので、
新任副議長は、連休明
けの二十二日に初登庁
し、石川議長がモット
ーに掲げる「茨城から
新時代を切り拓く県議
会」の具現化に向けて
動き出しました。

今期中の副議長就任は、
当初から「当確」と見
られていたが、それが
今年になったのは、
四十代と若かった上に、
潮来市で六月に開催さ
れる第五十六回全国植
樹祭が少なからず影響
したようです。
しかし、副議長は議長
の補佐役ですから、本
会議場でのあいさつも
「議長を補佐し、県勢
発展のため、円滑で充
実した議会運営に最善
の努力をしていきたい」
と短くまとめるなど、
岩上妙子元参院議員秘
書として政治の世界に
入った、西条副議長ら
ました。

座右の銘が「恐れず、
驕らず、迷わず」の熱
血漢も、高校時代のよ
うに、応援団長に徹す
るようです。ただ、西
条副議長がライフワー
クとして取り組んでき
た市町村合併が神栖、
波崎両町の間で実現の
運びとなった段階での
「朗報」とあって、地
元では新たな地域づく
りに向け、西条副議長
の政治手腕に期待を寄
せる声が増しに高ま
ってきています。

関係省庁に 意見書提出



山崎内閣官房副長官に意見書の提出

視した施策の推進
を求める意見書」
など六本。正副議
長ら一行は本県選
出の狩野安参院議
員の案内で、国土
交通省をはじめ、
厚生労働省や産業
経済省、総理官邸



林幹雄衆議院議員と懇談

■初仕事

翌二十三日には初仕
事として、正副議長と
もども上京し、第一回
定例会で採択された意
見書を関係省庁に提出
しました。意見書は本
県議会の意思を表した
ものですから、初仕事
にはピッタリの公務だ
ったと言えるでしょう。
この日、国に提出し
た意見書は「屋外広告
物法の改正を求める意
見書」「社会保障制度
の抜本的改革を求める
意見書」「雇用対策と
地域経済の活性化を重



伊達国土交通大臣政務官に意見書の提出

を忙しく回り、応対し
た副大臣や政務官など
に新任あいさつも兼ね
て意見書を提出しまし
た。
同時に、国交省や経
産省などには、石川議
長が新たな県総合計画
調査特別委員会の委員
長を務めていたことも

あり、同特別委の中間
報告を副大臣らに提出
新たな県づくりについ
て、国に対して理解と
協力を求めた
わけですが、
こうした機会
に要請活動を
展開したとこ
ろにも、何事
にも真摯な、
このコンビの
特徴が表れて
いると言える
でしょう。



保坂経済産業副大臣に意見書の提出

茨城から新時代を切り拓く県議会



副議長秘書と打ち合わせ

「茨城県が、日本をリードしていくことが、本県議会の使命ではないか」などと力を込めたのに対し、西条副議長は議場に通る声で短くまとめたのが対照的でした。



議会議場で副議長就任の挨拶

石川議長と呼吸もピッタリ!

■誕生・抱負
今回の正副議長改選は、挙で選ばれました。海野透前議長、業梨衛前副議長の辞任を受けて行われたもので、

石川新議長、西条新副議長とも投票による選挙で選ばれました。選任後、それぞれ壇上であいさつし、石川議長が戦後六十年という節目の年の、満を持しての議長就任とあって、「茨城県が、日本をリードしていくことが、本県議会の使命ではないか」などと力を込めたのに対し、西条副議長は議場に通る声で短くまとめたのが対照的でした。



副議長就任後の記者会見

西条副議長はその傍らで、議長の話に幾度となく相づちを打つなど、〃女房役〃に徹していました。副議長も本県議会を代表する論客、政策通として知られますから、このコンビ、執行部にとっては相当手ごわい存在となりそうです。

閉会後は、議長応接室での恒例の記者会見に臨み、決意や抱負などを語りました。記者からは辛辣な質問も飛び出しましたが、石川議長は自民党県連政調会長や新たな県総合計画調査特別委員長などを務めた「理念と哲学を持った政治家」（西条副議長の評）だけに、しつこく問われるたびに「地方は、この中で、決意については、「茨城から新時代を切り拓く県議会」をモットーに、かつて明治維新を導いた「天下の魁」の精神を現代に生かし、新時代を切り拓いていく積極的な県議会を目指して努力していきたい」と述べました。



議会議場職員に挨拶

第一歩踏み出す 緊張の面持ちで初登壇

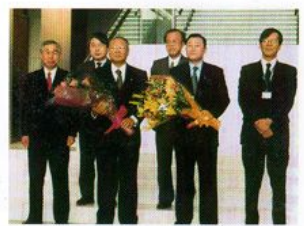
■初登壇

石川 西条正副議長が県議会議事堂に初登壇したのは、「春分の日」を挟む連休明けの二十二日。正副議長は午前十時三十分ちようど、正面玄関前に横付けされた議長車から一緒に降り、寺門義一議会議務局長をはじめとする事務局職員の拍手に迎えられました。

一般質問や委員会審議では菌に衣を着せぬ質問も少なくない西条副議長も、この時ばかりはやや緊張気味の面持ちでした。しかし、女子職員から花束を贈られるなど、改めて就任の喜び

を実感しようです。文字通り、第一歩を踏み出した後のロビーでのあいさつでは、石川議長が、本県人が持ち合わせている「天下の魁」の精神を説きながら、明るく楽しい雰囲気の中で、仕事に励んでほしい旨を述べ、職員を激励しました。これに対し、西条副議長は実業家らしく、「明るく楽しい中にも、緊張感を持って頑張してほしい。それが仕事をする上で最も大切です」とサポートを見せました。

西条副議長がこの日、議長室手前にある副議長室に入り、憧れの椅子にゆっくり腰を下ろすことができたのは午後になつてからでした。副議長秘書の職員と打ち合わせをしながら、重責をこなしめるように、座り心地を確かめ、決意を新たにしています。



議長、議会議務局長らと記念撮影

後援会事務所が移転

この度、左記に西条昌良後援会事務所を移転しました。お近くにお出での折には、是非お立ち寄り下さい。

〒314-0342 鹿島郡波崎町土合北2-9873-2
TEL 0479-48-0073 FAX 0479-48-4332